

霞ヶ浦医療センターを受診された患者様へ

- * 当院では、下記の臨床研究を実施しております。
- * 研究は全て当院倫理審査委員会の審査を受け、病院長の許可を受けております。
- * 本研究の対象者に該当する可能性がある方で診療情報等を研究目的に利用又は提供されることを希望されない場合また質問等おありになる場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。
- * もし、診療情報提供をご了解いただけない場合においても、皆様の病院サービスご利用について不利益が生じることは全くございません。
- * 研究はあくまで日常診療から集積された既存の診療情報を利用するものであり、新たに患者の皆様へ何らかの負担が生じることはございませんので、ご安心ください。

研究課題名 (承認番号)	本邦における若年子宮体がん妊孕性温存治療についての調査研究 (30-13)
研究責任者の氏名 (部門)	新井 ゆう子 (産婦人科)
研究の対象 (期間)	2009年1月1日より2013年12月31日までの間に、子宮体がんに対し黄体ホルモンによる子宮(妊孕性)温存治療を受けた患者さん
研究の目的	本邦における若年子宮体がんの子宮(妊孕性)温存療法の治療効果、その後の管理法、その後の妊娠についてなどの大規模調査を行い、治療の質の担保と安全な普及についての提言を行うこと
研究の概要	日本産婦人科学会婦人科腫瘍委員会による事業です。 子宮体がんの標準治療は子宮摘出ですが、妊娠を強く望む若い患者様の一部に対しては、黄体ホルモンによる子宮温存療法も行われる場合があります。しかしながら、この子宮温存療法の実態についての詳細は不明です。 本研究では久留米大学を研究事務局として、日本産婦人科学会の婦人科腫瘍登録を行っている施設を対象に、診療内容(使用薬剤の種類や投与量、投与期間、病巣消失の有無、再発の有無、その後の妊娠等)を調査し、多数例の情報から、治療適応の拡大の可能性を探ると同時に、安易な温存治療がなされていないか検証していき、治療法の確立と安全な普及について提言することを研究の目的としています。
研究に使用される項目	登録施設名、治療開始時の診断名、年齢、身長、体重、結婚状況、妊娠既往、月経周期、挙児希望の有無、不妊治療の有無、内科的合併症の有無、多嚢胞性卵巣の有無、Lynch症候群を疑う家族歴の有無、卵巣予備能検査施行の有無、症状の有無、診断方法、体部筋層浸潤の有無、治療方法、治療開始日、効果確認の方法、効果確認の間隔、病巣消失(寛解)の有無、病巣消失判定の方法、寛解判定日、一次治療終了日、治療に伴う有害事象の有無、寛解時の妊娠希望の有無、寛解後の維持療法の有無、経過観察の方法、経過観察を行う間隔、寛解後の妊娠の有無、不妊治療の有無、1年以上治療継続後も非寛解例への温存治療継続の有無、温存治療を中止した場合の子宮摘出(摘出法、組織型、進行期)、再発の有無、再発時の治療内容、経過観察中の卵巣がん発生の有無、最終生存確認日、最終生存確認時の転帰
個人情報の保護について	本研究で取り扱う患者さんの情報は、個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものかわからない形で日本産婦人科学会婦人科腫瘍委員会に提供されます。患者さんの情報と個人情報を連結させることはありません。
共同研究機関の有無 (名称、責任者氏名)	日本産婦人科学会事務局 TEL:03-5524-6900、FAX:03-5524-6911 Email:nissanfu@jsog.or.jp 研究代表者 久留米大学産婦人科教授 牛嶋公生 TEL:0942-31-7573、FAX:0942-35-0238 Email:kimi@med.kurume-u.ac.jp
備考	